





がばっ

「やだっ、痛いじゃない!捕虜に乱暴するなんて最低ね!」
「だから抵抗できない女の子を無理やりベッドに押し倒す男は最低って言うてるのよ!」

「いやいやして気持ち悪い!今に見てなさら
すぐにみんなが助けに来てくれるんだから!」

「いやっ! そんなもの入れないで! そんな大きいの入らな...!」
「んひいらいらいらいっ!! うそ... 五十鈴のおマンコに入れられちゃった...!」

「は、早く抜いて! 快感で五十鈴の頭おかしくなりそう!」
「...ああんっ... ダメえ... 動かないでえ...!」
「えっ、こんな順序の回? 嘘でしょ、今でもえいんなご狂らななの...!」

ズ
ズ



「えっなんで抜くの…うっ…ちよつとこんな中途半端で抜かないでよ…」
「おマンコの奥が疼くの…お願い、あんたのおチンポ頂戴…」

「えっ条件があるの？もういいなんでもいいから、なんでも言う事聞くから！」
「おマンコ疼き過ぎて頭おかしくなりそうなの！早くおチンポ頂戴！」

とろろ

「あんたの艦娘でもなんでもなるから、あんたをご主人様って呼ぶから……
いいえ呼ばせてくださいー！」

「ご主人様の命令には何でも従うわ！いくらでも五十鈴の体を使ってご奉仕するから！
だから五十鈴のおマンコのを疼きを止めてえー！」



「はあ…はあ…♡何コレ…五十鈴どうなっちゃったの?」
「あはっ♡でもこれでやっどご主人様のおチンポもらえる♡」

「早く早くご主人様♡五十鈴のおマンコはもう二秒だって待てないの♡」
「早く早くご主人様♡おチンポ頂戴♡」



「んはああああああああんっ♡おっきい♡五十鈴の奥の奥まで入ってくる♡」
「ダメ、だめだめえ！入れたただけなのにイッちゃう♡イク、イク、イックウウ♡」
「はあっ、はあっ♡気持ちいい…でもまだ足りない♡まだ五十鈴はイキたりないわ♡」

ズ
ズ

「ねえっ主人様♡さっきみたいに激しく動いて♡
五十鈴のおマンコに主人様の味を覚えさせて♡」

「あっ、あっ、あっ、あっ、ひらひらいいいいん…んあっ♥すっごい♥男らしい♥」
「五十鈴のおマンコがご主人様専用の形に変わってく♥こんな幸せなのは初めてよ♥」

あっ♥

はっ♥

「んっ、あっ、ああっ!んひい♥そんな奥はつか攻めちゃダメえ♥」
「もう五十鈴もイクそう!イク、イク、イク、イク!イツクウウウウウウッ♥」

ピポ
ピポ

ズボ
ズボ

「はあっ...はあっ...はあっ...お腹の中...暖かい♡これがご主人様の精液♡」
「さっきまで憎い相手だったのに今はただ愛おしいわ♡」
「ご主人様のためなら何でもできそうよ♡」
「どうするご主人様? まだ五十鈴の相手をしてくれるの?」
「それなら今度は五十鈴が上になるわね♡」

「これから戦闘でも夜の方でもご主人様の役に立って見せるわ♡
期待しててねご主人様♡」

おは...

んま...





















